(公財)歴史のみえるまちづくり協会
語り部ふくい ボランティア

語り部通信

令和８年度秋号（通算第46号）

(公財)歴史のみえるまちづくり協会
ボランティア　語り部ふくい

勝家とお市の方に逢いたくて！！

大河ドラマ「豊臣兄弟！」の流れの中で、地元福井だけでなく、県外からも、北庄を統治した勝家とお市の方の人柄と生き様に心惹かれ、年齢を問わず、逢いたくて北庄城址を訪れる人達が、新幹線効果とドラマの進行と共に多くなっています。

ドラマの中でも、勝家とお市の方、共にはまり役として演じられている中、北庄落城時に天守閣の最上階から空中に飛んだのには、感動というより唖然とさせられましたが、その最後を迎える時に、時鳥が飛び立ち、秀吉の陣取る天魔ヶ池を背にし、主君・織田信長も信仰したという霊峰白山を背景としたところは少し心を動かされました。

■令和8年度福井県ボランティアガイド　連絡協議会語り部発表・交流会
主管　語り部ふくい

福井県下のボランティアガイドが、毎年一堂に集まり日頃の活動や団体についての発表、午後からは、まち歩きと参加団体の発表を行っています。

今年度は語り部ふくいが主管となり、６月１８日(木)に行なわれました。主会場を福井県国際交流会館として、午後からのまち歩きは、養浩館庭園、福井城址、瑞源寺、愛宕坂、水道記念館、左内公園、西光寺、北庄などを案内しました。福井市の魅力を伝えるべく、精一杯のガイド案内と会員全員でのおもてなしに努めました。



会場の様子



瑞源寺所蔵の昌親公肖像画

まち歩きの後は、福井県内の各ガイドグループの活動発表を紹介していただき、質疑応答や意見交換をしながら交流を深め合いました。

各グループの発表に、気づきを得たり新たな発見したり、今回も実り多き１日となりました。



養浩館庭園



北庄

■小学校の歴史学習に貢献しています

６月初旬、３つの小学校のガイドを行いました。
どの日も暑すぎず、歩きやすいお天気でした。



子どもたちへのガイドの様子





■東公園発掘現場見学会

８月２５日(火) (仮称)福井アリーナ建設に当たり、東運動公園の発掘現場の合同見学会が行われました。語り部ふくいからは１２名の参加でした。
江戸時代の住宅跡、明治以降の師範学校の跡と地図を片手に学習できました。

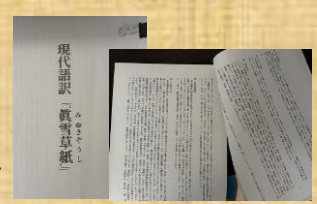


見学会の様子

■グループ勉強会に新グループ

みゆきぞうし
「眞雪草紙を読む会」

新しく立ち上がったグループ勉強会です。
月１回の開催、読み合わせを中心に進めていきます。



■福井城址石垣ライトアップも紹介

『福井城・笏谷石水鏡
～笏谷石がお堀の水面に映り込む絶景～』

築城以来ほぼ形を変えることなく現存している福井城の石垣。ガイド活動は日中がほとんどですが、夜のライトアップの、福井城址ならではの石垣の魅力も観光客に伝えていけるといいですね。



ライトアップ紹介案内

ブログ
うららのまち「語り部」ふくい





活動の様子や福井の歴史を発信しています。

ホームページ
歴NAVIふくい



ガイドや歴史講座などを紹介し、申込みを受け付けています。

YouTube
福井の歴史を紹介



福井の史跡や歴史などをを配信しています。

よもやま話

戦国・江戸時代の銅需要と福井県の面谷（おもだに）銅山

松下　弘

入社して初めて配属されたのは、紅葉で知られる栃木の町でした。そこには、銅とアルミをつくる工場がありました。さらに山深く分け入った先にあったのが、親会社の足尾銅山です。明治の日本を支え、銅を海外へ送り出した鉱山。その一方で、鉱毒によって、日本の公害問題を象徴する場所となった鉱山でもありました。

銅が古来より人々の生活の中で使われていたことは、福井県内の遺跡からも確認でき、戦国時代の城下町跡からは多くの銅銭が出土しており、一乗谷が滅亡した際に井戸へ投げ込まれたものもまとまって見つかっています。また、一乗谷では北宋銭をはじめ、唐銭や明銭なども出土しているそうです。こうした出土品からも、銅が戦国時代の人々の経済活動を支える貨幣として実際に使われていたことが分かります。

戦国時代から江戸時代にかけて、日本では銅の需要が高まりました。銅は鍋や釜などの日用品、仏具、武器、貨幣などに使われたほか、江戸時代には海外貿易の重要な輸出品にもなった。

福井県を代表する銅山が、現在の大野市和泉地区にあった面谷銅山です。開坑時期は平安時代とも室町時代ともいわれます。江戸時代になると本格的に発展し、宝永年間後期から正徳年間には、年間の産銅量が約10万斤（約60トン）に達しました。全国的にも有数の銅山で、産出した銅は「大野銅」と呼ばれました。

面谷銅山が重要だった理由の一つは、産出した銅が海外貿易につながっていたことです。元禄14年（1701）、幕府は大坂に銅座を設け、長崎御用銅、つまり海外輸出用の銅を確保することを大きな目的として、全国の銅の集荷や精錬、流通を統制しまました。面谷で産出された銅も「大野銅」として大坂へ運ばれ、その一部は長崎へ送られました。

当時の日本は、中国やオランダとの貿易を長崎に集中させていたが、銀や金の輸出が制限された後は、棹銅（棒状に銅を炉で溶かし、送風して精錬したもの）が主要な輸出品となりました。日本は銅を輸出する一方、中国から生糸や絹織物、砂糖、薬品などを輸入し、オランダとの貿易でも海外の商品や薬品などを得ていました。つまり銅は、国内で使うだけでなく、海外から必要な品物を手に入れるための重要な「貿易商品」だったのです。

面谷銅山から大坂までは、大野から三国、敦賀、大津を経て大坂へ運ぶ長い輸送路が使われました。大坂で精錬された銅は長崎へ送られ、海外へ渡りました。

面谷銅山の規模を、同じく江戸時代に発展した足尾銅山と比べると、その違いが分かります。足尾銅山は江戸時代の最盛期に年間1,300～1,500トンの銅を産出したとされ、面谷よりはるかに大規模でした。しかし、面谷銅山も全国有数の銅山として、大野藩の財政を支えるだけでなく、海外貿易を支える銅の供給地の一つとなっていたようです。

このように、福井県の面谷銅山で産出された「大野銅」は、「貿易商品」として江戸時代の国際貿易の中に組み込まれていたのです。面谷銅山は、明治21年より三菱が本格的な鉱山経営を開始し、全盛時代を迎えることになります。

最後に一句　　銅山の記憶抱えて山粧ふ（やまよそ）


（足尾銅山坑道）


（一乗谷出土銅銭）


（長崎御用棹銅）

（編集後記）

8/30早々にレベル５大雨特別警報が発令、嶺北地区の河川の多くの支流が氾濫しあっという間の浸水。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。そして、その日の大河ドラマは「北庄の別れ」勝家とお市の方のクライマックス！まさにこの日は全国版「福井デー」でした。いえいえ勝家とお市の方はいつも全国版！

【発行】
(公財)歴史のみえるまちづくり協会
ボランティア　語り部ふくい